

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に貼られている理念をそれぞれが毎朝確認して共有している。職員、利用者が一緒に、日頃から「陽気」に過ごせるようにしている。	法人理念と事業所目標を事務所と休憩室に掲示し、朝礼時に確認し合っている。職員同士が声を掛け合って、チームワークの良さを発揮し、「和気あいあい」とした日々が送れる様な支援に繋がっている。新入職員には、管理者が理念の持つ意味を説明している。家族には利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の制限されていた時期は過ぎたが、コロナ禍で中止になってしまった行事などもありコロナ禍前には、戻れていない。散歩や同法人の行事で交流している。	開設以来、町会費を納め、地域の一員として活動している。日々の散歩の際には近隣住民の皆さんと親しく挨拶を交わしている。新型コロナの5類への移行後も殆どの行事が中断している。そんな中、歌、楽器演奏のボランティアが定期的に来訪し、利用者も楽しみにしている。今後は、近隣の他グループホームの管理者と連携を図り、近くの保育園との交流を進めて行きたいと思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の実践から認知症に対してのケアや取り組み方法などを発信するための場所を探している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年の8月から対面での運営推進会議を再開している。グループの報告を行い、参加者の意見、情報を得ることが出来ている。利用者家族にも参加してもらい貴重な意見を頂いている。	コロナ禍中は書面での開催が続いていたが、昨年8月より対面での運営推進会議を再開した。町会長、地域包括支援センター職員、民生委員、近隣の他グループホーム管理者、家族代表、ホーム関係者が出席して偶数月に開催している。利用者状況、活動報告、今月のテーマの話し合い、意見交換等を行っている。利用者家族全員に運営推進会議の案内を出して、出席を促している。運営推進会議を通じ、地域との関わりを一層深めて行きたいと思っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や区分変更、介護保険の更新などの際に報告や相談などを行っている。	市高齢福祉課には事故・ヒヤリハットの報告等を速やかに行うと共に、様々な事柄について連携を取っている。地域包括支援センターとは入居相談等を行っている。介護認定更新調査は調査員が来訪し、ケアマネージャーが対応している。また、松本市立病院の医師や看護師が講師となつて行われている嚥下対策等の勉強会に参加すると共に、他施設との意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一回身体拘束適正化委員会を開き会議を行っている。利用者に対して本当に必要かどうか話し合いを行い、緊急に止む無く行う際は、必ず記録を取っている。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。転倒危惧のある方が若干名おり、家族と相談の上で、人感センサーを使用している。また、呼吸状態や睡眠状態をきめ細かく把握し、介護センサーをマットレスの下に敷いて安全確保に繋がっている。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、拘束に対する意識を高め、安心安全な支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待は、行われていないと認識しているが、万が一にもあってはならないので、利用者、職員と話し合いなども行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は、後見人さんのいる利用者さんもいたので、勉強会も行っていた。その後は、カンファレンス、勉強会の中でも再度理解を深めるために勉強会を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務長を中心に十分に説明を行っている。理解を深めてもらうためにも職員自身も契約内容をよく読み利用者家族から疑問がある際は、解決できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一回運営推進会議を行い、家族にも参加してもらうように案内を出して、参加してもらっている。その中で聞いた情報や知識をもとに利用者のケアに繋げている。	家族の面会は、現在、事前に連絡を頂いた上で、居室で人数は2～3名、時間制限無しで行っている。ホームでの生活の様子はケアマネージャーからの「ケアマネ便り」に併せて担当職員の手書きのお便りに写真を添えて毎月請求書に同封して、お届けしている。また、運営推進会議に家族の皆さんに参加して頂ける様に案内を出している。更に、今年はホームの行事に合わせて家族会を行う意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを行いその中でみなさんの意見を聞き取り、反映することが出来ている。それ以外でも日々の話し合いの中で意見を出しケアに繋げている。	職員会議は、毎月の月末週の日中に約2時間行っている。利用者のカンファレンス、各種勉強会、連絡事項、行事計画、意見交換等を行い業務内容の向上に繋げている。また、法人としてキャリアパス制度がある。職員が行った自己評価を基に管理者及び代表者が評価している。賞与査定の時等毎年3回代表者との個人面談が行われており、意見を述べる機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夏冬の賞与時にキャリアパスを通して職員の評価に繋げている。資格取得に係る費用なども負担してもらいスキルアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を行えるように、勤務の調整を行い参加している。研修に多く参加できるように早めに外部研修の予定を確認して、より多くの研修が受けられるようにしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くにあるグループホームの運営推進会議には、その都度参加している。松本市立病院主催の研修会や会議には、出来る限り参加をして施設内で報告をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	同法人の施設から入居される方とは居室を訪問して信頼関係を築くことが出来ている。居宅、他施設から移ってくる際も本人と面会をして信頼関係を築いてから入居してもらうように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際の聞き取りや家族からの質問にも直ぐに対応して信頼関係を築けるようにしている。その都度家族からの問い合わせには対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、本人が安心して過ごして頂くために本人に見学に来てもらい、体験入居の期間も設けている。話を本人としっかり行い他のサービスの利用も視野に入れて考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、思いを尊重して、できる限り見守りをしている。手伝って頂けることは、積極的にお願いしている。利用者さんにも助けてもらい感謝の言葉を伝えて助け合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば連絡を取り合い報告や相談をしている。面会や外泊、外出など家族に頼る部分はお願している。共に支える合うことが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人の施設から入居される方もおり、合同の行事や普段行き会う機会を日頃から大事にしている。馴染みの場所としても以前から行かれていた美容院などにも家族に連れて行ってもらっている。	同法人のケアハウスとの交流が盛んに行われており、顔見知りの方が面会に見えている。毎週日曜日にケアハウスで開かれている「編み物教室」に参加している方もいる。理美容については様子を見ながら職員がカットしているが、若干名の方は馴染みの美容院に出掛け、カットと毛染めを行っている。また、定期的に家に戻られたり家族と外食に出掛けている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見ながら食卓の席を決めたり、日頃からくつろぐ場所なども利用者の様子などを見ながら決めたりしている。自分から関係性を作りにくい利用者には、職員が寄り添い関係を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を転居する際も情報の提供を出来る限りさせてもらっている。その後の様子を伺ったり、利用者家族から利用者の紹介もしてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人に居室担当の職員が付いており毎月サービス評価表にて各自の希望や意向を聞いてケアプランに反映している。職員全員でのミーティングでも検討している。	利用者全員が意思表示がはっきりと出来る状況である。日々接する中で気付いた事柄は、タブレットのケース記録に纏めると共に重要な事は介護ノートに記録として残し、職員間で情報を共有している。また、出勤時に確認して、利用者の意向に沿える様支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に情報提供書、生活歴、サービス計画書もらい経過を聞いている。本人が喋ることができないこともあるので、家族に協力してもらい、センター方式シートの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なにかあった際は記録をとり、それを勤務に入る前に確認している。日勤と夜勤の送りの際にもその日、その晩の状況をしっかりと伝えて引き継ぎをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス評価表により居室担当が本人から聞き出した意向を伝えて、ケアマネージャーがご家族から聞いた希望も踏まえカンファレンスでケアプランを作成している。	職員は1名の利用者を担当し、日々の状況把握、居室管理、家族への手紙の作成等を行っている。月1回のカンファレンスで意見を出し合ってモニタリングを行い、家族からの希望も加味して、ケアマネージャーがプランを作成している。入所時は1カ月の暫定プランを作成し、様子を見て短期目標6ヶ月のプラン作成に繋げている。状態が安定している場合は長期目標1年で見直し、状態に変化が見られる時には適宜見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録にて確認しているが、大事なことがあればノートに記載してマーカーをつけ確認してもらっている。その都度居室担当と、ケアマネージャー、介護リーダーを中心に話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に必要だと思うサービスがあれば施設に訪問してもらいマッサージ、機能訓練や歯科往診などのを受けている。レクリエーションや食事も稲穂ならではのものを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々のご協力で野菜の収穫を楽しんでいる。理美容も施設内で散髪を行っている。手芸教室に参加できる利用者は、隣りのケアハウスに行き参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回主治医の往診があり、何かあれば連絡をして指示をもらっている。訪問看護にも間に入ってもらい週に1回の訪問時に指示や処置を受けている。	入所時に医療機関の状況を伺い、ホームの取り組みについて説明している。現在、利用者全員がホーム協力医の月2回の往診を受けている。併せて訪問看護師が週に1回来訪し、利用者の健康管理を行うと共に、医師との連携を図っている。歯科は必要に応じて、協力歯科医の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば連絡を取り合い報告や相談をしている。週に1回の訪問以外にも必要であれば、施設に訪問して処置をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医より情報提供をもらっている。退院時には実際に病院に出向き情報提供をもらい本人の様子も確認することが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の意見とご家族、本人の意向により終末期の意向を決めている。医療的処置が限られていることを十分に家族に伝えて看取りをできるようにしている。	重度化、終末期の対応指針があり、入居1ヶ月以内の協力医の往診時に合わせて面談を行って、家族の意向もお聞きした上で、ホームとしての取り組み方を説明して同意を頂いている。終末期を迎えた時には家族、医師、ホームで話し合いの場を設けている。家族の意向を確認の上で、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂いて医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。1年以内に数名の看取りを行った。家族には頻りに面会に来て頂いて、最期の時を過ごして頂いた。看取り後には職員間で振り返りの時間を設けて、次回に繋げる様に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急救命講習を受講している。急変時には、訪問看護と24時間連絡が取れるようになっているので、必要な指示をもらえるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。同法人のケアハウスとも避難場所の相談や災害時の対応も近所の協力体制を確認して、職員に周知するようにしたい。	消防署へ届け出た上で、年2回防災訓練を実施している。5月は夜間の火災を想定して、夜勤職員から施設長等への連絡及び職員出勤後に利用者を外へ移動しての避難訓練並びに初期消火訓練、通報訓練を行った。11月も火災を想定して、初期消火、通報訓練、利用者を玄関より外へ移動しての避難訓練を行った。また、緊急連絡網の確認訓練をスマートフォンのSNSを用いて定期的に行っている。「アルファ米」「水」「レトルト食品」等を3日分備蓄している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は、可能な限り同性の介護ができるように対応している。トイレ使用時もノックや声掛けを随時行い、利用者のプライバシーに配慮している。	利用者に対する言葉遣いには気を配っている。敬語での話し掛けを基本として、方言も交えながら家庭的な雰囲気を大切にしている。また、入浴は、なるべく同性介助で対応し、トイレ介助もノックやドアを閉める等を徹底している。呼び掛けは、基本的には苗字を「さん」付けでお呼びしているが、同じ苗字の方がいる場合には下の名前で呼び呼する事もある。年1回権利擁護の研修会を行い、プライバシー保護に対する意識を高めて、日々の支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見や好みを普段から聞くようにしている。その過程で行事のメニューや普段の食事を決めたりもしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の予定は、職員が決めているが、本人の意思を優先して過ごしてもらっている。休まれる時間や、お風呂やレクリエーションへの参加などは本人の意思に沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や朝の身支度は本人に服を選んでもらい本人の好みの服で過ごしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜の皮むきや下処理など利用者さんに出来ることは、手伝ってもらっている。片付けもお盆拭きなどやってもらっている。	全利用者が自力で常食の食事が取れる状況である。隣接するケアハウスの栄養士が立てた1週間分の献立を利用者の希望も聞いて、職員が一部アレンジして調理を行い出来立ての物を温かいうちに提供している。利用者は力量に合わせ「野菜の下処理」「盛り付け」「後片付け」等を手伝っている。また、行事食として、正月には「おせち料理」「寿司」、敬老会には「握り寿司」等を提供している。誕生日には手作りケーキ、更に、月1回は管理者手作りの「イタリア料理」を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人ケアハウスの栄養士が献立を立てそれを基に見て目のバランスも考えながら提供してくれている。1日で必要な水分を取れるように職員が情報を共用できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内に治療が必要な方は、1ヶ月に1回往診してもらい処置している。食事の後は、その都度口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の方もトイレで排泄できるように支援している。歩行器の方も普通のパンツを使用してご自分で排泄の処理をできるように支援している。	排泄は利用者全員が一部介助の状況であるが、全員トイレでの排泄が出来る様に支援している。排泄表も参考にして、起床時、食事前、就寝前の定時の声掛けのほかにも様子を見ながら早めにトイレにお誘いしている。お茶、ジュース、スポーツドリンク等で1日1200cc以上の水分摂取に取り組み、排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員が日頃の排泄のパターンを理解して、主治医、ケアマネが薬と水分の調整をしている。水分も十分に取るように努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を見やすい場所に張り出して、準備をするようにしている。本人の希望で入りたいくない場合は、それに従い調整している。	広い浴室に一般浴槽と車椅子のまま入れる特殊浴槽が設けられており、基本的には週2回の入浴を行っている。入浴拒否の方が若干名いるが、時間を変えたり、誘い方を工夫している。入浴剤を使用すると共に、「ゆず湯」「リンゴ湯」等季節の風呂も楽しんでいる。入浴後には「スポーツドリンク」や「ジュース」等で水分摂取を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体内時計が正常になるように日中日光を浴びに散歩に出かけている。空調や床暖などを調整してリラックス出来るように環境も整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診前に各入居者の薬のチェックを行い必要でない薬はケアマネが主治医と相談して検討してもらっている。一人一人が飲みやすい形状になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が情報の共有をし、利用者の作品や達成したことなどに職員が各自声掛けを行い気分を盛り上げている。嗜好品などは面会の際に家族に差し入れしをてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に協力してもらい外出や外泊は行う事ができている。最近インフルエンザとコロナが感染拡大しており思うように出来ていない。	外出時は自力歩行の方が若干名、付き添い歩行及び車椅子使用の方が数名の状況である。天気の良い時はホームの周りを散歩したり、ベランダでの外気浴や家庭菜園での野菜の収穫を楽しんでいる。また、季節毎にドライブを兼ねて戸外に出掛けている。春は梓川周辺から松本城までお花見、6月は松本空港のバラ園見学、秋は職員の実家のリンゴ園でのリンゴ狩りや梓川周辺の紅葉見物を楽しんでいる。更に、本が好きで元気な利用者は、職員と定期的に「松本市立図書館」や「波田地区の図書館」に本を借りに出掛けている。定期的に家に戻って外泊する方や家族と外食に出掛ける方もおり、利用者の希望に沿った支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金をご自分で所持している利用者はいない。今後外で買い物を出来るように支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者さんもいて、ご自分で電話をかけたり、かかってきて会話をしている。手紙のやり取りもできるように支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所には季節の花や皆さんで作った飾りを飾っている。近所の農家の方から持って来てもらった桃の花、桜の花、ひまわりの花等を飾っている。	一日の大半を過ごす共用フロアは十分な広さが確保されており、天井も高く天窓から明るい陽差しが差し込んでいる。フロアには、テーブル、ソファ、テレビ等が設けられている。また、東側の窓から外に出ると広いベランダがあり、外気浴を楽しむ場所となっている。更に、ホームの裏には広い家庭菜園があり、数々の野菜を栽培している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やテレビの前の席で各自が自分の場所がある。新聞を読んだりお友達と話したり、居室で塗り絵をして思い思いの時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みの物を置いたり、家族の写真を飾ったりしている。写真の好きな家族がいる居室には、家族が撮影した写真を居室に飾っている。	居室入り口には職員と共に製作した「ハリ絵」「折り紙」等の作品が飾られている。居室にはクローゼットが備えつけられている。家族と相談の上で、使い慣れた筆筒、衣装ケース、神棚等が自由に持ち込まれている。壁には風景写真や家族写真、誕生日のお祝いカードが飾られており、好きな人形等に囲まれて自由な日々を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには分かりやすいようにイラストで表示しており、各自のコップなどにも記名してある。ご自分で、出来ることはやってもらっている。各居室にも表札を貼り、入り口の暖簾もそれぞれ違うものを用意している。		